

現職議員からの『遺言』
次期議会に託す思い！

今期4年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、思うような議会活動ができなかったという反省点とともに、議会として大切にしなければならないこと、議会とはどうあるべきかに気付かされた4年間だったように感じます。この思うように動けなかった4年間をもちがいてきた10名の現職議員が次期の新たな議会への思いを託す、いわば現職議員から次期の議会に引き継ぐ思いをお伝えします。



インタビュー

議長に聞いた今期の議会

Q 今期4年間の議会活動で成果があったことは？

A 一つ目は、議員間協議に力を入れてきました。総務民生、経済文教の両常任委員会では、委員会前の協議をしっかりと行うことで目的を明確にした調査や担当課との議論を行うことができました。住民目線からテーマを定め、委員会で議論、要望することで、施策の変更に至ったケースも多かったように感じます。

次に、予算審査、決算審査前の勉強会を実施しました。これまでは、議員個々が各種資料に目を通し、審査に臨んでいましたが、今期は議員が集まり勉強会という形で事前に資料を確認、協議しました。そのことで共有の課題認識を持つことができ、より深みのある審議を行うことができました。

二つ目は、議会活動計画を作成しました。議会のあるべき姿を実現すべく、8つの活動指針を定め取り組みました。そのことで、現活動をチェックし改めて活動内容を計画し実施するという継続性のある議会活動につながる仕組みをつくることのできたと感じます。

Q 今期4年間の議会活動での課題は？

A 最も大きな課題は、住民とのコミュニケーションが取れなかったことだと思っています。

以前まで議会で行ってきた、「議会報告会」や「くるま座ミーティング」、「かたるべサロン」がコロナの影響で実施できなくなりました。住民の声を聞けないことで、議会活動に支障が出ることを痛感しました。一般質問をする議員が減ったのもこの影響が大きかったと思います。

また、コロナウイルスのまん延は議会と住民だけでなく、議会と町とのコミュニケーションにも大きな影響があったように感じます。議会と町はより良い町づくりを目指すという点では共通しており、お互いの役割をしっかりと遂行する上でより良い対話が必要であると感じます。

Q 次期の議会に期待すること

A 今期4年は議会にとっても大変な4年間でした。しかし、コロナ禍だからこそ充実して行えたこと、また議会として大きな気づきもありました。

次期の議会では、この4年間で私たちが経験してきたこと、経験の中で生まれた議会に対する思いを引き継いでいただき、新十津川町民にとって欠かせない議会になっていただきたいと思っています。

新たな議会へ 現職議員からのメッセージ



～座談会で語られた、次期議会への思い～

新しい議会が……

《重点的に取り組むべきこと！》

1 議会基本条例の制定

これまで、さまざまな取り組みを議会でも実施してきました。この取り組みを継続して実施していけるよう、町民としっかり約束する意味でも「議会基本条例」を早期に制定すべき

2 議会モニターを設置

住民とともに歩む議会を目指し、議会活動に町民の意見を反映する仕組みとして、議会モニター制度を導入すべき

3 町民と議会が課題を共有できる勉強会の実施

町民と議会が町の課題を共有し、共に考える町づくりを目指す議会であるべき。町づくりに町民が関心を持つ意味でも、議会が町民と一緒に学べる仕組みをつくるべき

《新しい議会はこうあるべき！》

1 議会全体として……

議員間の協議を深め、政策提言を行える議会になる
町民、町とのコミュニケーションを深め、より良い町づくりに向けた議会を目指す

2 議員個々として……

行政全般の知識を深め、さまざまな場面における対応力を身に付ける
町民の代表である意識を持ち、自らの意思を表明し積極的に発言する
議員であるというプライドを持つ

3 議会事務局として……

政策立案へのサポート機能を高める
多様化する議会活動を支えるためにも増員すべき